

平成28年度 伊丹市いじめ防止フォーラム（第3回伊丹市いじめ防止等対策審議会）

日 時 平成28年11月12日（土）14：00～16：00

場 所 伊丹市立労働福祉会館（スワンホール）

参 加 107名

司 会： 皆さまこんにちは。本日は「伊丹市いじめ防止フォーラム」にお集まりいただきありがとうございます。ただいまからフォーラムを開会させていただきます。私は本日の司会をつとめます伊丹市教育委員会事務局学校指導課の福本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。開会に先立ちまして、主催者を代表して、木下誠教育長がご挨拶申し上げます。

教育長（あいさつ）

こんにちは。教育長の木下です。このように多くの方にご参加いただき、感謝申し上げます。最初にうれしいお知らせがございます。図書館の本館、ことば蔵が、最も権威のあるライブラリーオブザイヤーという賞で、見事最優秀賞を受賞しました。ことばを大切にする本市で受賞できたことは大変喜ばしく、市民とともにある図書館で、交流活動を盛んに行ったことが評価されたものであります。

その他、土曜学習やコミュニティースクールも、市民力の高さからくるものです。いじめのことにしても、いじめ防止対策審議会では、関係機関、学校、保護者が参加して行っております。これは全国でまだ30%程度の取組で、本市では先駆けて実施しております。

いじめに対する認識を高めるための取組になっています。いじめは、平成23年に津市での自殺事件を契機に法律が制定され、きめ細やかな対応がなされてきました。それ以来、アンケート調査をしたり、個別面談をしたりという取組が進んできております。

先日、文部科学省から発表された問題行動等調査においては、いじめの認知件数は、積極的に認知して対応していこうということで増加しております。本市では、1000人あたり46.5人の認知件数で、全国平均より3倍から4倍の認知件数です。早期に認知し、対応していこうということの表れです。

本日の取組を通して、一人ひとりの人権が大切にされる会にしたいと思っております。また、開催にあたり、尽力いただきました関係機関の皆様へ感謝を申し上げますとともに、いじめのない本市の街づくりを進めてまいりたいと思っております。本日はありがとうございました。

司 会： 本日のいじめ防止フォーラムは、学校、家庭、地域、関係機関が一堂に介して、伊丹の子どもたちがいじめで悩むことがないように、それぞれの考え方や活動の内容をお互いに共有し、連携を深め、地域ぐるみで子どもたちの健全な育成を推進していくことを目指して開催いたします。

本日は、兵庫教育大学大学院教授であり、国のいじめ防止対策推進法の見直しに副座長として、関わられ、また、本市のいじめ防止等対策審議会会長を務めていただいている新井教授にファシリテーターを務めていただき、生徒・保護者・教員の立場からいじめ問題につい

て考えます。そこで、いじめに関する事例をとりあげ、生徒・保護者・教員がそれぞれの立場からグループで協議するとともに、フロアの方々とも意見交換しながら、いじめの問題にどう向き合うのか考える会にしていきます。

本日、配布しております付箋は皆さまのご意見をいただくツールとして活用させていただきます。よろしく願いいたします。本フォーラムを通して、いじめの防止に向けた取組の充実を図ってまいりたいと考えております。ご協力くださいますようお願いいたします。

それでは、本日、ご参加いただき、生徒の代表、保護者の代表、教員の代表の皆さんをご紹介します。

【 生徒（8名）・保護者（4名）・教員（4名）の紹介 】

そして、ファシリテーターは、先程ご紹介させていただきました兵庫教育大学大学院新井肇教授です。よろしくお願いいたします。では、これよりは、新井教授による進行をお願いいたします。新井教授、よろしくお願いいたします。

新井教授（フォーラムについての説明）

こんにちは。今年は、ひとつの事例、学校でありがちな事例を DVD で取り上げ、生徒の立場・保護者の立場、先生の立場、参加者の立場で考えていきます。いじめの事案についての見解で、お互いのずれがあるかもしれないし、学校が思いつかないことを提案していただけるかもしれません。ひとつの事例から、いじめ問題について考えることで、いじめがなくなることを目指したワークショップです。主に、先ほど紹介した方々の意見交流を進めてまいります。フロアの方にも交流をお願いすることもあります。

まず、DVD を見ていただきます。その事例を見て、一緒に考えていきます。

【 DVD 視聴 】

新井教授： 以上のような DVD です。暴力を伴っているもので、そうそうあることではないかもしれませんが、これに近いいじめ事案があるかもしれません。この DVD を基に話し合っていきたいと思います。

それでは、質問を1から5まで用意しました。それぞれの質問に対し、自分の考えを書き出してください。フロアの方は、参加者の意見を見る・聞くからスタートしてください。質問を読み上げますので、1分間でポストイットに書いてください。

1 問目、「いじめるときってどんな気持ちなのだろう？」こんなことかなと思いつくことを書いてください。

次に、2 問目、「いじめられた時の気持ちってどんなだろう？」類推して思いつくことを書いていってください。同じく1分間です。

3 問目、「裏切って加担するのはどうしてだろう？」みなさんなりに考えていただけたら

と思います。友達だったのに、裏切ってしまうのはどうしてだろう。

4問目、「本当はいじめたくないのに、いじめる側になってしまった。周りに流されるのは、どうしてなのだろう。」

最後に5問目、「ビデオに出てきた大人（家族・先生・父親・母親）たちを見て、どう思うでしょうか。」大人もいじめの防止に関わっていくことになります。ビデオを見て感じたことを書いてください。

では、それぞれのグループのホワイトボードの質問項目のところに貼り出してください。生徒・教員・保護者の順に意見を読み上げてください。

1問目「いじめるときってどんな気持ちなのだろう？」について

生徒： 自分のいらいらが薄まっていく 自分より下に見ると気持ちいい 特に相手のことを考えていない

生徒： からかい程度の気持ち すがすがしい気持ち 優越感

教員： 優越感 やっている瞬間は気持ちがいい だめだと思っているが罪悪感はない いらいらしている 何も考えていない 自分の方が上に立っているという感覚

保護者： 優越感 やらなければやられそう ねたみ すっきりする 単純に楽しい 自分が理解されていない不満を他人にぶつけている

2問目「いじめられた時の気持ちってどんなだろう？」について

生徒： なんでこんなことをされないといけないのだ 自分を責める どうしたらいいのかわからない

生徒： 本当にいやだ 誰にも言えない 傷つく・苦しい しんどい

教員： くやしい 悲しい 孤独感 自己否定 自分はだめで必要とされていない だまっている しかない

保護者： 情けなさ 虚しさ くやしき 悲しさ どうして自分だけ どうしてこうなった 誰か気づいて

3問目「裏切って加担するのはどうしてだろう？」について

生徒： 一人の友達よりたくさんの周りのの方が怖い いじめないと自分がやられる リーダー格の人がいっぱい指示してくるからストレス 周りに流され楽しい方に流れる

生徒： 自分がいじめられるのを恐れている 怖くなる 自分までまきこまれていじめられる

教員： 加担しないとターゲットになる 自分を守るため 怖い やられたくない

保護者： みんなもやっている 自分を守る 矛先がこちらにきてほしくない 関わりたくない 見たくない 次は自分

4問目「周囲に流されるのはどうしてだろう」について

生徒： 逆らうと自分がいじめられる 怖い 自分がみんなと一緒にしないといじめられる 嫌なことをされる 自分は大丈夫という安心感がほしい 恐ろしい 恐怖心

生徒： 人と少しでも違うといじめられる なんとなく合わせる 目標がないから いじめている人が怖いから

教師： 一人はいやだ 孤独になりたくない 集団にいないと不安 自分の意思で動かない動けない 善悪の判断ない

保護者： みんなといると安心 流されると楽 自分を守る 自分だけではない 怖い

5 問目「ビデオに出てきた大人たちを見てどう思うか」について

生徒： 先生は格闘技の技を教えているわけがないことを気づいて 親にもいじめられていることは話せない どこかに見せなくても変化はあるから気づいて 先生はいじめている生徒への話を聞く時間をもっととらないと

生徒： 少しでも変化に気づいて ちゃんと話を聞いて もっと子供をわかって 先生はいじめている側を気にしすぎ いじめられている方に気をつけて

教師： 教師に対していじめがあるという前提で行動できてない 個別に話せなかったのか 家庭が子どもにとって支える場所になっているか

保護者： まさか自分の子がいじめられると思っていない 子供の変化に周りの大人が気付いてあげないと 保護者も交えて話すべき 子供を信用しすぎている 親は違った様子に気づくことができるのだろうか

新井教授： 次の課題に入ります。いじめている側・いじめられている側・観衆・傍観者それぞれの立場でどう感じたか、親として教員としてどう関わっていくかを考えてもらいました。次はグループで考えます。3つ質問をします。

質問6 「いじめられたときはどう対応するか。」

質問7 「いじめをしないためにはどうしたらいいか。」

質問8 「いじめを止めるためにはどうしたらいいか。」

フロアの方も付箋に書いていただき、近くの4人で話し合ってください。

【 グループ協議 】

新井教授： グループとしてこのようにするというを各4分でまとめてください。

ホワイトボードにグループとしての意見を集約して書いてください。フロアの方は、ポストイットを掲示板に重ならないように貼ってください。

では、発表してもらいます。

6 問目「いじめられたときはどう対応するか」について

生徒： いじめが大きくならないうちに信頼できる大人に相談する

新井教授： 君にとって信頼できる大人って？

生徒： 先生・親

生徒： 大人に相談する前にまずクラスの友達、先輩、他のクラスの人に相談したい 最悪、大人に相談する

教員： 教員としていじめがわかったときどうするかで書きましたが、私がいじめられたら管理職に相談します。

新井教授： 先生できますか？

教員： 私は、かつていじめの経験がありますが、親が気づきました。それでもいじめは続き、思い切って相手を投げ飛ばしたらいじめはおさまりました。

保護者： 自分の子がいじめられたらということで話し合いました。まず、子に聞く。先生に聞く。広げて相手の子だったり周りの子だったり聞いていく。

新井教授： 先生・保護者の意見を合わせると、大人に相談されたら対応していきます。子どもからは気づいてほしいという気持ちがあります。

7問目「いじめをしないためにはどうしたらいいか」について

加害者を出さないために発表してもらいます。

生徒： 自分がされていやなことは自分から決してしない。

生徒： いじめに使うストレスを自分の趣味に費やしていく。

教員： いじめをしてもよいか、○か×かを子どもたちに問えば、×とすべての子どもは答えます。それでもいじめが起こるということは、理性がコントロールできなかつたり、表現力が育っていかつたりしていると考えられます。そのために、失敗体験や成功体験を積み重ねて、理性のコントロール力をつけていく。また、読書好きな子にいじめっ子はあまり見ない。読書をすることで、表現力が育っていくと考えます。

新井教授： 自分の抱えていることをどう出すか。それは課題です。表現力が必要である。自分がされていやなことってなんだろうと想像する力を育ててはならないということですね。

保護者： 家庭内で話を聞く時間をとります。私たちも親同士のつながりをもって他からの話も耳に入れるようにします。私たちが子どもたちをいつも見ている。最悪の結果になる前に相談してもらえるようにしていきます。

新井教授： そのためには、子どもの声を聞くことなんですかね。

新井教授： 君は、よく親に話を聞いてもらっていますか？

生徒： はい

生徒： ぼくは全然しゃべりません。しゃべりたいと思いません。

新井教授： うんと困ったら相談しますか？

生徒： めっちゃ困ったら相談するかも。

新井教授： 女の子はどうですか？

生徒： 最近は母親としかしゃべりません。

新井教授： ということだそうです。そこに回路がありますよね。母から父へ話が伝わりますね。では、いじめを見つけた時に止めるための勇気がありますか。

8問目「いじめを止めるためにはどうしたらいいか。」について

生徒： 早めに気づき大人に相談するか、自分たちでグループを作って止めに入ります。仲間がいればできます。

生徒：　　すごく親しい子がいじめられていたら、個別で話して、先生に伝えるときは、電話で話し、名前は隠してもらいます。先生に話しているところを見られると、自分がいじめられる可能性もあります。

新井教授：　先生もうまく周りにわからないように話が聞ける場をつくるといいですね。

教員：　　教員の立場からいうと、大人に早く相談してほしいところですが、生徒からは、大人は最後。そこら辺のギャップは感じます。複数にわたったときにやっといじめに気づくこともあります。できるだけ早く、先生に相談してほしい。すぐ相談してくれる子や勇気のある子は、何かに打ち込んだり、成功・失敗体験を積んでいたりする子が多いかと思います。できるだけ早く相談して解決したいことを願う、そういう環境を作り上げていきます。先生に相談したら解決してくれるだろうという関係を日頃から作ることが早期発見・早期解決につながります。

新井教授：　困ったときは友達に相談するというのがアンケートでも多い。友達が大人につながぐことに至らないことも多い。どうしたら、大人に相談できるだろうと思いますか。

生徒：　　普段から先生と話しやすい環境が大切です。

保護者：　　すべての質問に関係しますが、周りの環境が大切です。学校・地域・家庭が連携して、近くの人たちが気づく環境、地域のコミュニティが強化され、なるべく早く気づいてあげることが大切です。

新井教授：　昔はコミュニティが密接だったが、今は崩れてきています。また、昔のようなことができるか。社会総がかりとはこういうこと。何が大事かということが見えてきた気がします。

新井教授：　最後に質問9「いじめのない学校にするためには（生徒として、先生として、保護者として、地域の大人として）何ができるのか」です。

　　いろんな立場からいじめを考えてきました。具体的にいじめをしないため、いじめられたら、ということを考えてきました。いじめのない学校・社会、大人でもいじめはあります。保護者同士でもあります。いじめのない学校にするためにどうすればいいか。いじめのない社会をつくるためにはどうすればいいのかわかりません。生徒や先生は学校について考え、フロアの方は視点を広げて、社会で考えてください。メモをとりながら、10分間協議をしてください。最終的には、模造紙に書き出します。

【 グループ協議 】

新井教授：　それでは、模造紙に書き出しててください。フロアの方はポストイットを貼ってください。

新井教授：　発表にうつります。発表の後、1つだけ質問をすることを加えます。

9問目「いじめのない学校にするためには（生徒として、先生として、保護者として、地域の大人として）何ができるのか」について

生徒：　　小さなことでも相談しやすい環境。グループを作りすぎない。

新井教授：　小さいグループ同士が絡み合えないが増えていきますよね。

生徒：　　SNSとかで間接的に話し合うのではなく、顔をつきあわせて本音を語り、相手を知って、

けんかをして性格を把握する。ぐちぐち言わず、いがみ合わず、例え、合わない人でも戦うのではなく、合う人同士でつるんでいく。一人にならないように。その中で仲良くしていけばいじめはなくなります。

新井教授： 嫌なやつを攻撃するのではなくて、なんとかやってこうということですね。

教員： 1に未然防止、2に早期発見、3に早期対応

1ですが、いじめをしない子を育てる。最終的には、自己肯定感が高い子はいじめない。みんなちがってみんないいを低学年から教えていく。啓発活動。目に見えるところで話したり掲示したりする。先生あかんって言ってたよねの声につなげていく。

2については、子どもと休み時間を過ごしたり、早めに教室に行ったり、子どものいる場所に教師の目がある。アンケートをとる。正義の声。いじめられている子がSOSを出せなくても見ている子が出せる、そういう子育てをしていく。

保護者： いろいろな意見をいただいて、子どもとの関係性が大切だと思います。学校と保護者の信頼関係も大切です。私は学校にはよく行きますが、来てもらえない保護者もいます。PTAを拡大して、保護者も成長していかないといけない。地域住民との関係性についてですが、コミュニティとして関係性を改善していく。笑顔を絶やさず、明るい豊かな社会を築くという感想ができました。

新井教授： 他のグループへの質問にうつります。

生徒： 先生へ質問です。自己肯定感ってなんですか？

教員： 自己肯定感というのは、自分自身が認められている、得意なことがある。簡単にいうと自信ということかな。自分自身に自信があると、人を攻撃しない。そう感じている。一人一人に自信をつけることだと考えています。

新井教授： 抱えていること、能力に違いがあるが、自分はこれでいってみようという自信がみんなの中に生まれればと思います。

生徒： 先生への質問です。いじめをしない子どもを育てるとは、具体的にどういう行動をとっていいんですか。

教員： 小学校の教師ですが、小学校では、ちくちく言葉・ふわふわ言葉を低学年で指導します。思ったことをすぐに言う子に、それを振り返らせます。ちくちくする言葉をふわふわに言い換えてみましょうとよく言います。いじめられない子を育てるのではなく、いじめない子を育てている。小学校は朝から先生はずっと子どもと一緒にいます。トイレにも行かず、お茶も飲まずにずっといます。具体的に一つ一つ丁寧に教えてあげることだと思います。

教員： 保護者に質問です。学校と保護者の信頼関係を結ぶために学校としてできることは何ですか。

保護者： 保護者が学校を信頼するのが先かな。個人的な意見ですが、どっちかが認めないと近づかない。保護者はもっと学校のことを信用していくことが先決だと思います。

新井教授： 相思相愛という言葉がありますが、保護者が先生を好きなら先生も好き。発信し合うことも大切です。

保護者： 子どもたちに質問です。最悪の場合、先生と親とどっちに先に相談しますか。

生徒： ぼくは、先生にします。理由は、先生の方が、そういうことに対応が優れていると思います。

親に言ったら先生に言うから、最初から先生に言います。

生徒： 私は、親に相談します。やっぱり、先生という時間も長いけど、ママという方が安心するからです。

新井教授： 先生に、親に、いろいろありますが、相談される大人になることが大切です。会場のみなさんで、地域で後押ししてできることをだしてもらえたらと思います。質問でもいいですけど。

フロア： 我々の地域では、保護者と話したときには、家庭の躰をまずしていただきたいと話しています。何でも先生のせいにする人も多いが、生まれてからはまず家庭で躰、それから学校へ。

保護司の経験から、言葉遣いから教えています。家庭が出発。兄弟で兄はできるが弟はできないとかそういうことを平気でいう親もいます。不登校から非行に走る傾向もあります。そのときは、家庭でその子を認めてもらいたいと伝えています。

フロア： 4人育てていると、家庭でみきれないこともあります。外に出たら子どもが何をしているか目が届かないところがあります。そのため、我が子でなくても声をかけるようにしています。自分の子どもと同じように声をかけていると、健全に育つのではないかと思います。

新井教授： 初めてこのような形式でやってみました。聞いていて思ったのですが、お互いの声を聞くということ、わかろうとするということ、これは先生、親、子ども同士で大切です。顔を見合わせて聞き合う。どう聞かかが大切。それが今日出てきました。子どもというのは、家庭だけでも学校だけでも育たない。いろいろな人が関わって育っている。今日は8人の生徒の意見でしたが、町で出会ったら声をかけたくくなります。そうしていけば、関わりたい子どもが増えます。意見を出しっ放しのような会になりましたが、今日の意見を集約して、市教委から発信できるように考えています。それを材料に、また議論をしていけたらと思います。先生も大変ながら来ていただき、ありがとうございます。保護者の皆さんもありがとうございます。生徒の皆さんも率直に意見を出してくれてありがとうございました。

本日はここまでにしたいと思います。前に出てくださった方、立ってフロアを向いてください。拍手でとじたいと思います。(拍手)

ご参加くださった方、席に戻ってください。進行を司会に返します。

司会： 本日、ご参加いただきました皆さま、新井先生どうもありがとうございました。

本フォーラムを通して、学校、家庭、地域が一体となって、いじめ防止の意識がさらに高まり、伊丹市からいじめがなくなるようご協力をよろしくお願いいたします。

本フォーラムの閉会にあたりまして、伊丹市教育委員会事務局 廣重久美子学校指導課長が閉会のご挨拶申し上げます。

広重課長： 本日は、伊丹市いじめ防止フォーラムにお集まりいただきありがとうございます。様々な立場からご意見いただいたこと、ありがたく思っています。それぞれの立場でいじめに向き合っていていただけたらと思います。このような会が持てたのも、新井教授、審議会の委員の皆様、集ってくださった皆様のおかげです。ありがとうございました。

司会： 以上をもちまして、「伊丹市いじめ防止フォーラム」を閉会いたします。最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。それでは、お気をつけてお帰り下さい。

以上